

学校教育 目標	夢と希望を持ち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す 資質・能力	グローバル社会に主体的に関わり、未来を創造的に切り拓く確かな学力をもった児童生徒の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 問題に示された情報を読みとり既習内容と結び付ける(5年理科)・数学的な説明文の書き方に慣れていない(8年数学)・授業で思考力・表現力を高めてきた反面、基礎的用語の定着が今ひとつ(8年社会)・文脈の中における語句の意味の捉え方があいまいである(9年国語)・学年が上がるにつれて学力の二極化の状態が見られる	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 学習に取り組む上で計画性が不足している児童生徒が多い。また苦手教科がはっきりしている児童生徒が多く、教科によって取組にムラがある傾向がある。家庭環境では携帯電話等でインターネット等をしている生徒が多く8年生では県平均の2倍の数値となっていた。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
	全校で対話を重視した授業実践に取り組んできた成果として、5年生では国語科の「話すこと・聞くこと」の正答率が県平均よりも5ポイント高かったが「書くこと」は6ポイント低くなっており、課題が明らかとなっている。またこれが9年生では「話すこと・聞くこと」は4.8ポイント、「書くこと」は10.4ポイント高かった。9年生はこれまでの3年間で短作文等の添削指導を繰り返し行ってきており、自分の考えを述べる際にも必ず根拠を書かせるよう指導している。このような取組が実を結んでいることが明らかであり、前期課程においても、先を見通した取組が必要であることが分かる。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 低学力層の底上げを目指した授業改善を行っている。具体的には、めあて・課題・まとめ・振り返りを適切に設定することと、問題解決的な授業の工夫や対話を重視した授業の工夫、板書の構造化、ICT機器の積極的な活用等に全校を挙げて取り組んでいる。学校評価アンケート(教師用)では「主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりに取り組んでいると思いますか」の問いに対する肯定的回答が81.8%であった。また「板書の構造化を意識した授業づくりに取り組んでいると思いますか」では84.1%であった。今後は校内研修における互見授業等の取組を通して改善していきたい。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 家庭学習の習慣化を目指して、発達段階に応じて作成した「碩田学園家庭学習の手引き」を年度当初に配布し、活用している。そして既習内容の定着を図り、授業と連動した家庭学習の実施と継続した指導を行っている。また読書指導では、低学年からの個に応じた計画的かつ継続的な指導を実施している。その他に9年生数学と6年算数の習熟度別授業、5年国語と6年理科の後期課程乗り入れ授業、6年国語と社会の一部教科担任制授業、1～6年えいごコミュニケーション・外国語と3～6年音楽、4年理科の専科授業等に取り組んでいる。	

学力に関する達成指標

単元末テスト又は定期試験における低学力層(前期課程60点、後期課程30点以下)をそれぞれ8%、13%以下にする

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>(授業改善テーマ) 9カ年を見通した系統的な指導を図る中で「主体的・対話的で深い学び」を実現する</p> <p>(授業改善の重点) ○課題解決の過程における対話の重視 ○板書の構造化 ○ICT活用などによる授業のUD化 ○低学力層の底上げを意識した授業や課題の工夫</p>	
	<p>〈取組内容〉</p> <p>授業改善の取組 ○めあて・課題・まとめ・振り返りの適切な設定と問題解決的な授業の工夫 ○生徒指導の3機能を生かした授業の工夫 ○主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習展開 ○ねらいに応じたICT活用と視覚支援(授業のUD化による分かる授業づくり)</p> <p>学習習慣の形成 ○授業5原則の徹底 ○家庭学習の習慣化 ○授業と連動した家庭学習の実施と指導(発達の段階に応じた「家庭学習の手引き」の活用)</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>(達成指標) ○家庭学習習慣の肯定率80% ○家庭での対話・声かけ率100%</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>○気づきを生み出す対話を1時間に1回以上 ○生徒指導の3機能を生かした授業展開教職員アンケート85%以上 ○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ)を活用した授業展開 100% ○ICTの活用を1単元に1回以上</p> <p>○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施(2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ) ○家庭学習の習慣化を図る「碩田学園家庭学習の手引き」の活用 100%</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>○毎日、家庭で対話をする。 ○毎日、家庭学習について声かけや励ましをする。 ○年間3回以上、学校行事(授業参観等)に参加する。 ○地域で出会った子どもに、あいさつや声かけを行う。</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>○授業が分かりやすいという児童生徒の肯定的評価90%以上にする。 ○家庭学習についてよくやっているという保護者の肯定的評価を80%以上にする。 ○板書の構造化に取り組む教職員100%</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>本校は積極的に情報発信をしているという保護者の肯定的評価を90%以上にする。</p>
<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <p>○補充学習の実施・個に応じた指導・習熟度別の宿題(低学力層の底上げ) ○読書指導 ○少人数指導・習熟度別指導等の実施</p>		